

NISMAIL/MMCF メールボックス（FLQ）拡張について

概要

NISMAIL は転送ファイルをメールボックスにキューイングする蓄積交換型ファイル転送を行います。ACOS-4 版 NISMAIL(NISMAIL/MMCF)は、メールボックスの実体として中継蓄積ファイル（FLQ：MMCF.M.FLQn）を待機結合編成形式（LINKQD）で実装しており、転送ファイルの容量や蓄積数の変化に応じて容量予測・再拡張・追加拡張・使用率確認をご検討ください。

FLQ・アロケート仕様

ファイル名	MMCF.M.FLQn （ n：1～20 ）
アロケート必須パラメータ	FILEORG=LINKQD RECFORM=VB RECSIZE=4096 BLOCKSZ=6144 NODELR
標準インストール時のファイルサイズ	MMCF.M.FLQ1 100LAU (Cyl)

1. 容量予測

FLQ の容量算定は ACOS-4 待機結合編成ファイルの容量算定に準じます。

考慮するポイント

MMCFMBFUP で集配信情報を登録するさいに、「使用後削除」または「配信後削除」を指定していない場合は、FLQ にデータが保存されメンテナンスユーティリティ（¥MMCFFLQMTN）を実行することで削除されます。

転送データの保存を行う場合は、保存する転送データの累計より大きな FLQ が必要となります。また、管理状態が「未使用」の場合は、FLQ に格納された転送データは残されます。

「未使用」となるケース

— ファイル受信後のジョブが異常終了している。

[受信済み未使用]

— 相手サーバが停止している

[作成済み未送信]

等

2. 拡張

FLQ を拡張する方法は「FLQ 再拡張」と「FLQ 追加拡張」があります。

1) FLQ 再拡張（アロケートサイズ拡張）

通常のファイル拡張で FLQ のアロケートサイズを拡張します。FLQ の中に格納されている転送データは MMCF の管理ファイルに登録されているため、データ移行を行う必要があります。

再拡張手順)

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| (1) MMCF 常駐ジョブ停止 | |
| (2) FLQ データセーブ | (¥LIBMTN、¥ILIBMTN 等を使用) |
| (3) FLQ 削除 | (¥DEALLOC) |
| (4) FLQ 再作成 | (¥PREALLOC) |
| 環境生成 JCL 内の FLQ 部分を使用 | 'MMCF.JS1(MMCF_ALLOC*)' |
| (5) FLQ データロード | (¥LIBMTN、¥ILIBMTN 等を使用) |
| (6) MMCF 常駐ジョブ起動 | |

注意

MMCF は FLQ の全てのメンバを管理ファイルで管理しています。FLQ のメンバをメンテナンスユーティリティ以外の方法で削除してしまうと不整合状態となります。

¥LIBMTN を使用して FLQ のデータセーブ、データロードを行う場合、全てのメンバが対象となるように注意してください。

レコードのないディレクトリのみ存在するメンバ (0 件データ) を処理することを考慮し、以下の記述を必ず指定する。

書式例

//FL NAME=MMCF.M.FLQ1 **EMPTY**

EMPTY : 0 件データを対象にします。

2) FLQ 追加拡張（FLQ2 以降を追加実装）

MMCF は最大 20 個までの FLQ を実装することができます。MMCF は使用率 (%) の値が小さい FLQ を自動的に選択し転送データを格納します。

追加拡張手順)

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| (1) FLQ 追加作成 (¥PREALLOC) | MMCF.M.FLQn (n : 2~20) |
| 環境生成 JCL 内の FLQ 部分を使用 | 'MMCF.JS1(MMCF_ALLOC*)' |
| (2) MMCF 常駐ジョブ停止 | |
| (3) FLQ 追加情報登録 | (*MMCFCSYUP4) |
| マニュアル「MMCF 利用の手引き」第 5 章参照 | |
| (4) MMCF 常駐ジョブ起動 | |

3. 使用率確認

システム実施時期およびファイル転送追加や転送データ増加など当初の容量予測に差が出る場合は、FLQ の使用率を確認し備える必要があります。

「MMCF ユーザサポートガイド」の「10 運用上の注意事項」を参照

以上